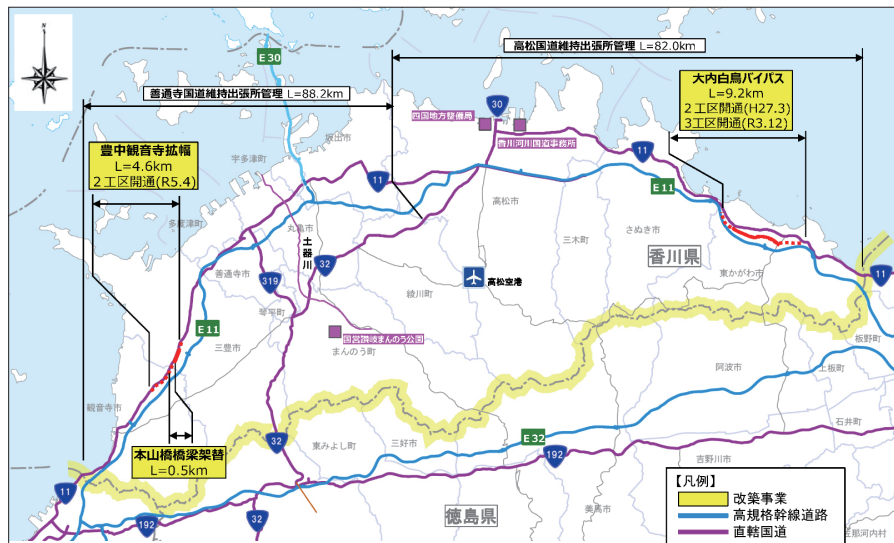


香川河川国道事務所の道路事業概要

国土交通省 四国地方整備局

香川河川国道事務所長 黒木 賢二郎



全の確保をはかり、香川・徳島間の地域連携を強化し、東かがわ市の新たなまちづくりの支援などを目的に平成12年度に事業着手を行い、延長9.2kmを1～4工区に分割して整備を進め、平成26年から令和3年にかけて、2工区、3工区5.9kmの部分開通を行っています。

令和5年度は1工区の帰来地区等での改良工事等を行い、また4工区の中山地区での橋梁工事を行っています。

国道11号「豊中観音寺拡幅」は、三豊市から観音寺市の交通渋滞の緩和や交通事故減少などを目的に平成20年度に4車線拡幅事業に着手し、延長4.6kmを1～4工区に分割して整備を進め、三豊市豊中町上高野～本山の1.3km間が令和5年4月26日に4車線開通を行っています。

1. 香川河川国道事務所及び道路事業の概要

香川河川国道事務所は、河川事業として1級河川である土器川の改修・管理、公園事業として国営讃岐まんのう公園の管理、道路事業として、香川県内の国道11号、30号、32号、319号の改築・管理を担当しています。

香川県は、四国の北東部にあり面積は全国で最も小さく、地形は半月型で南部に讃岐山脈、北部には讃岐平野が展開し、四季を通じて温暖小雨な地域です。しかし、人口10万人当たりの交通事故死者数は3.72人と全国ワ

スト4位（令和4年）で、主要渋滞箇所が高松市中心部や国道11号を中心に50箇所存在し、県内の交通手段としては約7割が自動車を利用しているなど、自動車交通に依存している状況です。それらの課題に対応するため、香川河川国道事務所では、国道11号大内白鳥バイパス、豊中観音寺拡幅、本山橋橋梁架替の改築事業、交差点改良等の交通安全対策事業、高松市内では電線共同溝事業等も進めています。

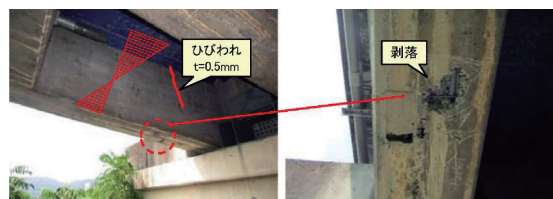
国道11号「大内白鳥バイパス」は、東かがわ市の交通混雑の緩和と交通安全



大内白鳥バイパス1工区の帰来地区



豊中観音寺拡幅本山橋床版工事



本山橋橋梁架替

令和5年度は本大地区等での改良工事や床版工事を行い、また観音寺市吉岡地区等で用地買収を推進しています。

国道11号「本山橋橋梁架替」は、建設から71年が経過し、老朽化による損傷に加え、耐震性や治水上の課題があることが確認された本山橋を架け替え、道路の信頼性を高めることを目的に令和5年度より事業着手しました。令和5年度は調査設計を推進しています。

2. 整備効果

国道11号 大内白鳥バイパス 通学路の安全性向上

国道と並行する市道（通学路）では、渋滞の抜け道として通過交通の流入がありましたが、令和3年12月の部分開通により、市道（通学路）交通量が6割減少しており、バイパスの歩道（一部区間）も通学路として利用され、安全性が向上しています。

物流企業の進出による地域雇用創出

沿線では、バイパス整備などを見据え四国シェア1位を誇る企業などが平成28年度以降新たに立地しており、部分開通により、走行環境の改善が図られ、荷痛軽減などの輸送ロスが低減され、今後も新たな物流企業の進出が予定されるなど、地域の雇用創出の支援が期待されます。

国道11号 豊中観音寺拡幅 現道の渋滞緩和

令和5年4月の4車線開通により、主要渋滞箇所である

六ノ坪交差点の渋滞長が無くなり、混雑度が改善しています。

また、沿道施設へ出入りする車両の後続車両への進行阻害も減少し、平均旅行速度が最大で約15km/h向上しています。

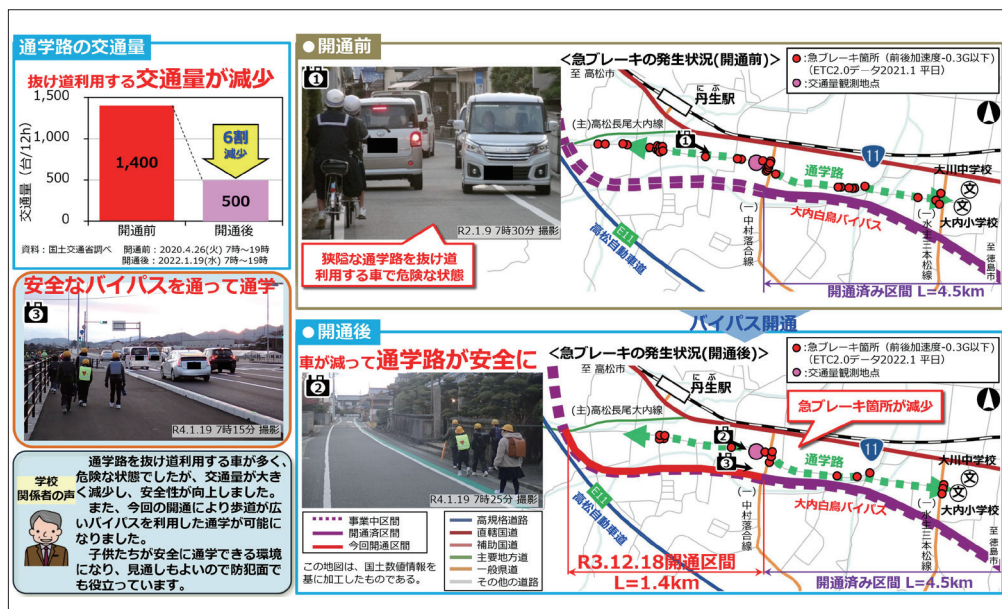
観光の支援

三豊市・観音寺市には父母ヶ浜、高屋神社等の注目のインスタスポットが点在し、観光入込客数も年々増加傾向となっております。4車線化により

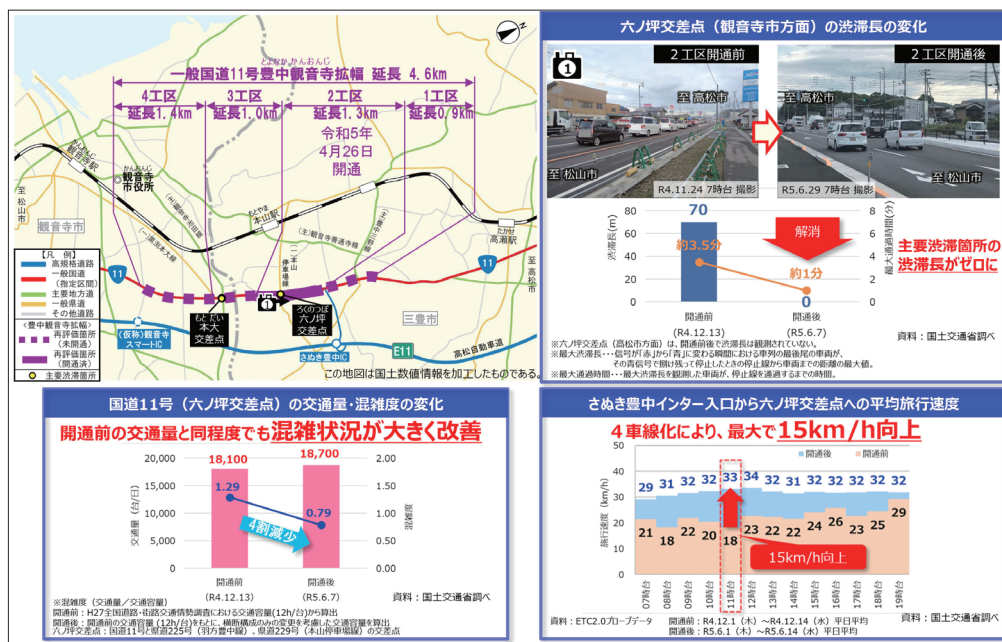
り、周辺地域の観光スポットめぐりが強化され、アフターコロナにおける地域観光再生の支援についても期待されます。

3. おわりに

これからも、地域の方々のご協力を頂きながら大内白鳥バイパス等の改築事業、交通安全対策事業、電線共同溝事業、県内の渋滞対策などに取り組み、引き続き香川県の発展に資する道路整備を推進して参ります。



大内白鳥バイパスの整備効果 (R3 年12月開通後の状況 (通学路の安全性向上))



豊中観音寺拡幅の整備効果 (R5 年4月の4車線開通後の状況 (渋滞緩和))